



文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

豊口 和士

これからの書写・書道教育 (15)

平成29年3月に小学校・中学校、平成30年3月に高等学校の学習指導要領が改訂・告示され、令和2年4月の小学校、令和3年4月の中学校に続き、いよいよ令和4年4月より高等学校でも年次進行で完全実施されます。

今次の改訂では、全ての教科・科目において育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し直されました。また、各教科等の学びの中でこれらの資質・能力が確実に身に付けられるよう、指導の工夫が求められています。そのために、小・中学校に続き、高等学校教育現場でも、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」に基づいて、新しい学習評価の準備が進められていることと思います。

本連載では、今次改訂を踏まえた、これからの書写・書道教育について紹介していきます。

今回は、前回まで確認してきました「文字文化」の視点も踏まえつつ、「文字を手書きすること」の捉え方について解説していこうと思います。

① 「手書き」することの重要性

はじめに

皆さんは「文字を手書きすること」についてどのように感じているでしょうか。学校に通う児童・生徒の皆さんにとって、学校生活や日常生活において文字を手書きすることは必要不可欠なことです。当たり前のように感じているかもしれませんが、その一方で、学校生活や日常生活の中でも情報機器を使ってキーボードやタッチ画面で「文字を打つ」機会も増加していることと思います。また、すべての人に共通するかは定かではありませんが、社会人になると、文字を手書きする機会は更に減少することと思います。

以下、平成22年6月に文化審議会答申として発表された「改定常用漢字表」と、平成28年2月に文化審議

会国語分科会報告として発表された

「常用漢字表の字体・字形に関する

指針」（以下、「指針」）を手掛かり

として、「漢字を手書きすることの

重要性」について見ていきたいと思

います。なお、漢字について扱う常

用漢字表の特性上、これらの二つの

資料では「漢字」に限定して述べら

れています。皆さんは「文字」として捉えてよろしいと思います。

② 「改定常用漢字表」に示された

「漢字を手書きすることの重要性」

の概要

「指針」では、「改定常用漢字表」

での記述が次のようにまとめられて

います（一部省略）。

「改定常用漢字表」では、漢字を手で書くことを、「漢字の習得及び運用面とのかかわり」という面と「手書き自体が大切な文化である」という面との二つの側面から整理している。

前者については、「書き取り練習の中で繰り返し漢字を手書きすることで、視覚、触覚、運動感覚など様々な感覚が複合する形でかかわる」ため、それに

よって「脳が活性化されるとともに、漢字の習得に大きく寄与する」こと、また、そのような習得が「漢字の基本的な運筆を確実に身に付けさせるだけでなく、将来、漢字を正確に弁別し、的確に運用する能力の形成及びその伸長・充実に結び付く」という考え方を示している。

また、後者については、情報機器が普及する中でも、漢字を手書きする機会が今後もなくすることはないと考えている人が多いこと、また、手書きの文字には、書き手の個性が表れること等を踏まえ、「へ手で書く」ということは日本の文化としても極めて大切なものである」という考え方を社会全体に普及していくことが重要」であり、「情報機器が普及すればするほど、手書きの価値を改めて認識していくことが大切である」としている。

「指針」でのまとめでは取り上げられていませんが、「改定常用漢字表」の記述の中の「手書きの重要性が再認識されつつあるが、一方で、手書

きでは相手（＝読み手）に申し訳ないといった価値観も同時に生じていることに目を向ける必要がある。」という点と、「手で書いた文字には、書き手の個性が現れるが、その意味でも、個性を大事にしようとする時代であるからこそ、手で書くことが一層大切にされなければならないという考え方が強く求められているとも言えよう。」という点も注目されます。

③ 「国語に関する世論調査」より

「国語に関する世論調査」とは、文化庁が平成7年度から毎年実施しているもので、現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起することを目的に、各年度末1月～2月、全国16歳以上の男女を対象に行っている調査です。

平成22年6月発表の「改定常用漢字表」では平成14年度の調査が、平成28年2月発表の「指針」では平成26年度の調査が背景となっています。

平成26年度には、「手書き文字の字形と印刷文字の字形について」という項目を含む調査が行われました。「指針」には、平成26年度の調査を踏まえた、以下のような記述が見られます（一部省略）。

「文字を手書きする習慣は、これからの時代においても大切にすべきであると思うか、それとも思わないか」という問いに対しては、91・5%の人が「大切にすべきである思う」と回答した。一方、「大切にすべきであるとは思わない」は1・6%であった。（中略）

これらの調査結果からは、多くの人が手書きの習慣を今後守るべきものであると考えるとともに、手書きの文字に対しては印刷文字の役割以上のものを期待する場合があることがうかがえる。再現性の高い情報の保存や正確な伝達という観点からは、印刷文字を用いる方が優位であるとも考えられるが、印刷文字からは得られない付加的な価値を手書きの文字に求めているとも言えよう。

「大切にすべきである」とした理由（選択肢の中から幾つでも回答）として、「手書きの文字には個性が表れ、印刷文字にはない情感などを込めることができるから」が60・7%、「文字を手書きすること自体が文化であり、それを守っていくべきだと思うから」が45・2%となりました。また、年賀状や挨拶状などで、文字の部分が全て印刷されたものと文字の部分が手書きされたものや手書きが一言加えられたものとは、どちらが良いと思うかを尋ねた問いでは、「手書きされたものや手書きが一言加えられたもの」が87・6%となりました。

文字を手書きすることにおいて大切なことは、「いかに伝えるか」ということであり、情報内容を正確に記録・伝達するにとどまらず、書の伝統と文化を背景として、「豊かに」「美しく」「相手への気持ちを含めて」、自身を表現して伝えることなのだろうと思われまます。

（次回に続く）